

地域懇談会開催の概要

(1) 開催日時等

| 開催日時 | 開催場所 | 参加者数 |
|-----------------|------------|------|
| 8月1日(火) 午後2時から | 岩瀬カナル会館 | 14人 |
| 8月5日(土) 午前10時から | 大庄公民館 | 22人 |
| 8月7日(月) 午後7時から | 新庄公民館 | 18人 |
| 8月9日(水) 午後7時から | 角川介護予防センター | 10人 |
| 8月10日(木) 午後2時から | 呉羽会館 | 25人 |
| 合計 | | 89人 |

(2) 地域懇談会における主な意見等

地域懇談会の意見交換の場等において、地域福祉の充実に向け、主に次のような意見等をいただきました。

① 高齢者関連

- ・高齢者世帯、ひとり暮らし世帯が増加しており、支援する側の人数が不足してきている。
- ・定年年齢が上がってきているため、家にいる人が少ない。
- ・町内会内にある班は、どの班も高齢化率が高く、近所相互の見守りや支え合いが難しい。
- ・高齢者を見守る側に事故が発生したときは、誰が高齢者を見守れるのか。
- ・高齢者の買い物難民をつくらないようにしてもらいたい。

② 障害のある人関連

- ・障害のある人の実態はあまり地域で知られていないので、ぜひ地域で関心を寄せていただきたい。
- ・障害のある人を含めた地域でのイベントなどを実施、常日頃から顔見知りになるようにしたいし、そうすべき。

③ 子ども・子育て関連

- ・保育の充実、小規模校の維持存続など、地域の生活基盤が将来も保たれていることが大切であると思う。
- ・子どもの自主的な地域行事への参加が重要と考える。
- ・子どもたちの思いやりの心を育む体験活動等を広げていかなくてはいけないのではないか。
- ・子どもを安心して育てられるよう地区住民が子育て世帯を支援していく仕組みをつくる。
- ・子育て世代が参加者の中に全くおらず、子育て世代のニーズや課題を全く集めることができていない。

④ 避難行動要支援者関連

- ・災害発生時に、避難行動要支援者の避難所までの移動をどのように支援したらよいか。
- ・避難行動要支援者名簿を地域で生かすことはできないか。

⑤ 地域支援者関連

- ・地区社協、民生委員の負担が大きい。地域ごとに支援体制を構築できないか。
- ・福祉委員の活動が十分行われていない。成り手不足と複数年できる人がいないからだと思う。町内会長と兼務する地区が多く、困っている。
- ・民生委員と福祉推進員の役割をわかりやすくすべきである。
- ・市の広報など、情報があるにもかかわらず、実際の現場で生かせないため、人材の育成とネットワークの構築が大切である。
- ・人材が育たない。
- ・若い人も地域福祉に関する活動ができるような休暇制度があるとよい。
- ・若い人たちが住み続けてこそ、地域の福祉活動も維持できる。
- ・後継者、指導者、リーダーの発掘と育成が必要。
- ・公職（公務員等）にあった人は、退職後にボランティア活動をしていただきたい。

⑥ 生活・交通関連

- ・ふだん孤立を感じている人は思ったより多く、少しでも解消方法が実現できるとよい。
- ・住民が安心して暮らせるように、住民が協力しあい、福祉課題の解決に取り組んでほしい。
- ・子どもだけでなく高齢者も利用できる地域食堂の運営を柔軟に支援してほしい。

- ・ゴミ屋敷に対する何らかの解決策を明確にしてほしい。
- ・山間部での福祉が手薄にならないようにする必要がある。
- ・地域には高齢者などデジタル難民が多くいることも考慮してほしい。
- ・買い物難民をどうすればいいか、心配している。コミュニティバスなどを活用して、地域のお年寄りを買い物に連れて行ってほしいが、市の取り組みでは経費が住民にかかりすぎているので、考えてほしい。

⑦ 行政関係

- ・総合的に相談できる窓口があるとよい。
- ・複合的な課題を抱えた世帯に対し、相談受付窓口→関係部局での調整→具体的支援→支援の成果というプロセスの事例をまとめ、広く市民に周知するとよい。
- ・他の地区の事例を紹介したり、アドバイスできる人を配置するとよい。
- ・コーディネートを職員が配置されるとよい。
- ・地区センターを主に活用したほうがよい。
- ・デジタルの導入など積極的に提案してもらいたい。
- ・個人情報への柔軟な取り扱いについて検討してもらいたい。